

平成27年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成27年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ホッケ

学名 *Pleurogrammus azonus*

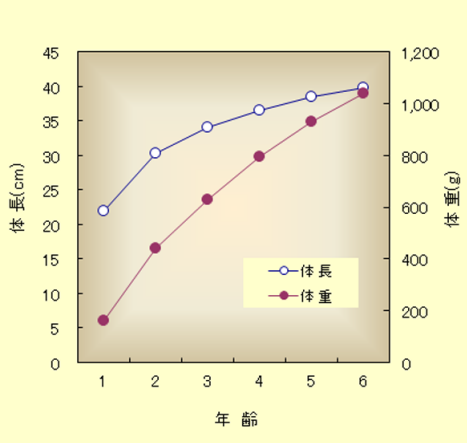
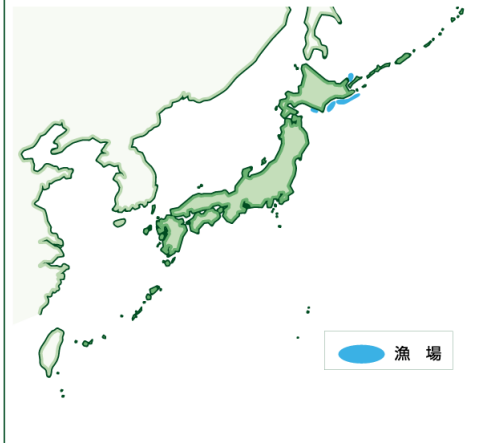
系群名 根室海峡・道東・日高・胆振

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特性

寿命： 10歳以上
成熟開始年齢： 1歳（一部）、2歳（大部分）
産卵期・産卵場： 日高沖や根室海峡、知床半島先端水域など、10月中～11月中旬（知床半島先端水域）
索餌期・索餌場： 春、胆振、日高、道東、根室海峡、北方四島周辺水域の水深200m以浅
食性： 仔魚期には主にカイアシ類、未成魚期にはヨコエビ類、岩礁周辺で定着生活に移行後は魚類、魚卵、イカ類、エビ類、ヨコエビ類、オキアミ類など
捕食者： 不明

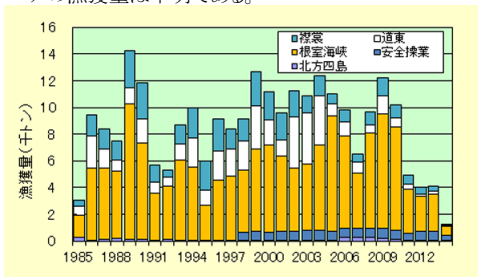


漁業の特徴

刺網、定置網などの沿岸漁業、沖合底びき網漁業（沖底）で漁獲され、総漁獲量の7～9割は沿岸漁業による。襟裳以西（日高・胆振）および道東では沖底および刺網、北方四島では沖底、根室海峡では刺網および定置網による漁獲が主体である。北方四島操業枠組み協定に基づき、国後島沿岸における刺網による漁獲も行われている。我が国の他、ロシアでも漁獲されているが、操業実態は不明である。

漁獲の動向

漁獲量は、1989年の1.42万トンから1992年に5,300トンに半減した後、2010年までは5,000トン～1.2万トンで推移した。2011年以降は大きく減少して5,000トンを下回り、2014年はさらに減少して888トンとなった。海域別漁獲量は根室海峡で最も多く、全体の5～8割を占めている。2014年の根室海峡の漁獲量は、過去最低の700トンであった。ロシアの漁獲量は不明である。



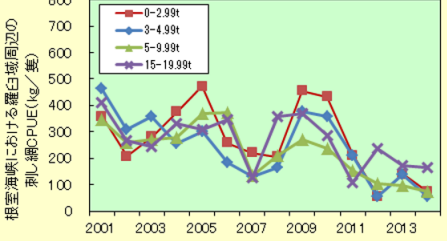
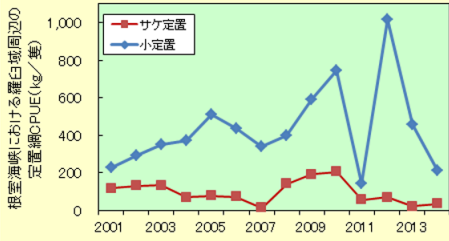
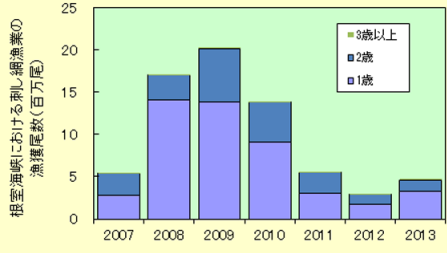
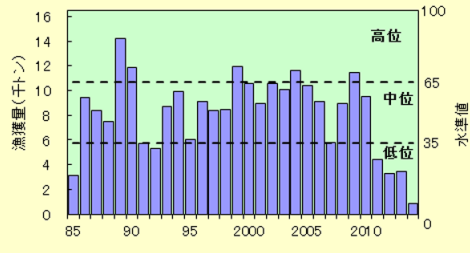
資源評価法

本資源は評価海域より広範囲に分布するロシアとの跨り資源であり、情報が限られているため、漁獲量の変動が資源状態を反映していると仮定し、漁獲量の推移から資源状態を判断した。なお、根室海峡の定置網および刺網の一隻あたり漁獲量 (CPUE) も資源動向判断の参考とした。また、1～3歳魚の漁獲状況から加入状況を推察した。

資源状態

資源水準は、過去30年間（1985～2014年）の漁獲量の平均値を50とした場合の相対値を水準値として、35未満を低位、35以上65未満を中位、65以上を高位と設定した。2014年の漁獲量は888トンで水準値は5となり、低位と判断した。動向は、直近5年間（2010～2014年）の漁獲量が急減していること、根室海峡における定置網および刺網のCPUEが2011年以降大きく減少していることから、減少と判断した。1～3歳の漁獲状況から、2010～2012年級群の加入量は2007～2009年級群と比較して少なく、資源の減少が懸念される。





管理方策

資源水準・動向は低位・減少で、近年加入状況の悪化が推察されることから、現状の漁獲圧の下では資源状態は低調なまま推移することが予想される。このため、資源状態に合わせて漁獲圧を抑えることを管理方策として2016年ABCを算定した。本資源は広域にわたって分布・回遊し、根室海峡については隣接する北方四島海域との資源の往来も想定される。当該海域だけの管理では資源全体を管理することは困難であるが、資源量の減少が懸念されるため、漁獲努力量の削減が望まれる。

管理基準	Limit/Target	F値	漁獲割合(%)	2016年ABC(千トン)
0.7・C2014・0.76	Limit	-	-	0.5
	Target	-	-	0.4

- Limitは、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量。Targetは、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の増大が期待される漁獲量
- ABC算定規則2-2)により、 $ABCLimit = \delta_2 \cdot Ct \cdot \gamma_2$ 、 $ABCtarget = ABCLimit \cdot \alpha$ とし、係数 α には標準値0.8を用いた
- δ_2 には0.7を用い、 γ_2 (0.76)は、 $\gamma_2 = 1 + k(b/I)$ で計算した。Kは標準値の0.5とし、bとは資源量指標値の傾きと平均値(直近3年間(2012～2014年))である
- Ctは近年で最も漁獲量が少なかった2014年の漁獲量

資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は減少
- 漁獲量、根室海峡における定置・刺網類のCPUEともに近年は減少傾向にある
- 2010～2012年級群の加入量はそれ以前と比較して少なく、資源の減少が懸念される

管理方策のまとめ

- 資源状態に合わせて漁獲圧を抑えることを管理方策として2016年ABCを算定した
- 広域にわたって分布・回遊し、根室海峡については隣接する北方四島海域との資源の往来が想定されるため、当該海域だけの管理では資源全体を管理することは困難である
- 資源量の減少が懸念されるため、漁獲努力量の削減が望まれる

執筆者: 森田晶子・濱津友紀・船本鉄一郎

資源評価は毎年更新されます。